

# 令和6・7年度学力向上研究指定事業

---

算数科における学力向上を目指した学習指導の研究  
～共に学び合う児童の育成を目指して～

皆野町立皆野小学校

# 主題設定の理由



## ○本校について

- 在籍児童 274名〈R7〉
- 皆野町... 3つの小学校(一番規模の大きい学校)
- 校内研修... 「学力向上」及び「SDGs教育」
- 学力向上の手立て  
⇒ 「学び合い」 「TT指導」

# 主題設定の理由

## 児童

- ・ 問題を読み取る力や、イメージする力が弱い
- ・ 筋道を立てて表現する力が弱い

## 教職員

- ・ 若手の増加⇒指導力向上

# 継続した研究主題

# 令和6年度、課題

- 「手段」 ⇒ ○
- 「目的意識」 ⇒ △

皆小算数科授業スタンダード 本時・本単元で身に付けさせたい力を明確にする		
授業の流れ	指導のポイント	時間
①前時までの学習を振り返る	・本時につながる事項を確認しておく。	1
②本時の学習課題をつかむ	・問題を提示し、わかっていること、聞かれていること確かめる。 ・問題を讀んで、課題は本時のままとど対するように(児童とのやりとりを通して)設定する。 ・具体物やICTなどを有効に活用し、課題設定を工夫する。	5
③見通しを持つ	・どんな見方、考え方をするか、どんな方法になりそうか、どのくらいになりそうかを見通させ、全体で見通させる。 ・今まで学習したことが使えるか、使っている(違う)ところはないか確認する。	5
④自力解決をする。	・※教科書(ブロック)を使う。 ・絵図、言葉、式で考えをまとめる。(※筋立てて表現できるようにする。) ・問題に合った資料(マスシート、センチカード)等を工夫する。 ・他の方法も考える。	8
⑤比較・検討する (学び合い)	・自分の考えを友達に伝える。 ・友達の考えを聴く。 ・高い考えを比較・検討させる。 (同じ・違うところ、よいか・せいかなど) ↓ ・教師指導で児童の考えを整理し、整理的に提示し、全体で振り返り上げる。 ・ICTを有効に活用する。 ・振り返り(観点を明確にして比較・検討) それぞれの考えのよさ、一番強みのあるもの、一番付いた考え ↓ ・本時の課題と正解、まとめる、児童の声を生かして作る。 ・適用問題を解き、残った課題のよさを味わう、数学的意図付け	15 ~ 20
⑥まとめ	・児童が本時の自分の学びを伝えられるように、振り返らせる。 ・次時への課題付けをする。	5 ~ 10
⑦振り返り	・児童が本時の自分の学びを伝えられるように、振り返らせる。 ・次時への課題付けをする。 ・振り返りの視点 (正解・やりかた・理由など)をどうでもよいことになったことでもよいことと	5

※振り返りを共有する機会(発表・掲示)をとると、上手く書けない児童も書き方がわかってくる。

授業づくりのポイント	
授業前	<b>1 本時の学習内容「何を学ぶか」をつかむ</b> ・活動とゴールの両面を「何を学ぶか」「何が出来るようになるのか」を定める。 ・教員が用意する課題・児童が考えさせる課題等「どのような学びか」を決める。 ・「学びたい」を育てる。「何を学ぶか」を育てる。 ・「何を学ぶか」に合った教材研究 ・児童の学びの過程となる具体物、ワークシート、ICT資料等を準備する。 ・「何を学ぶか」に合った教材研究「国語科に活用」「算数科に活用」
導入	<b>3 コンパクトでインパクトのある導入にする</b> ・短く、かつ子供の「やりたい」を汲み出す導入で学習への意欲・関心を高める。 ・本時の「ねらい(関心)」を明確にする。
展開	<b>4 「何を学ぶか」に合った課題設定・発問</b> ・短く、明確で伝わるよう、言葉を精選する。話し言葉は、他の児童にも思考を促す。 ・教師が解説せず、児童の発問に引き出し、誘い出し、他の児童にも思考を促す。 <b>5 解決方法の発通しをもたせる</b> ・児童との対峙時を工夫し、発問と課題の両面をもたせる。 <b>6 個に考えをもたせる</b> ・自力解決の準備をもち、見通しをもとに、一人一人に考えや意見をもたせる。 <b>7 児童の活動する時間を充実させる</b> ・ペア、グループでの話し合いやICT等の活用を認め、対峙時間は厳格に実施させ、自分の考えをアウトプットさせる。 ・多様な考えをしっかりと見せしめ、受け止める。 <b>8 ファシリテーターとして動く</b> ・児童の考えを「つなぐ・まとめる・図る」意識を「主体的子供」 ・一般論からの発問の発問だけでなく、個別にあった考えを整理して提示し、共有させる。 ・全体での振り返りが、個人・グループ別、意見交換、意見を絞る上げる様子を工夫する。
まとめ	<b>9 「まとめ」で学習内容の定着を図る</b> ・「問題」と対応した「まとめ」にする。児童の意見を踏まえてまとめる。
終末	<b>10 「振り返り」で自分の学びを振り返らせる</b> ・「振り返り」できるように「振り返り」子供自身の思考を促す。 ・本時の振り返りに対して自分の学びを振り返ることのできる機会をもち、 <b>11 次時につながる意欲を高める</b> ・家庭学習ノートとのリンクを図る。 ・次の学習への意欲を高める。

児童に身につけさせたいのは？

そのための手段

手段が目的になってしまわないよう気をつける

# 令和6年度、課題

- 「県学調」の結果から
  - ・平均点は、高いレベルであるが...
  - ・一人一人の「伸び」を見ると...  
⇒全員が伸ばしたわけではない。

**上位、中位、低位**

**それぞれのアプローチ方法を**

# 課題

県平均より低い

## ○令和6年度 県学調の質問調査から...

- ・「勉強するときは、内容を頭に思い浮かべながら考える」【4年、5年】
- ・「勉強をしているときに、やっていることが正しくできているかどうかを確認する」【5年】
- ・「学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか」【5年】

## ○普段の様子を見ても...

- ・問題の読解力・イメージする力
- ・筋道を立てて表現する力
- ・自信の低さ

**見通し・見直し・非認知能力**

# 課題をまとめると...

## ○児童

- ・ **問題**を読み取る力や、**イメージ**する力が弱い
- ・ 筋道を立てて**表現**する力が弱いこと
- ・ **一人一人の伸び**、非認知能力を高める

## ○教師

- ・ 「皆小**スタンダード**」 「授業づくりの**ポイント**」の浸透、継承
- ・ 効果的な活用（手段が目的とならないように...）

「算数科における学力向上を目指した**学習指導**の研究」～共に**学び合う**児童の育成を目指して～

適切な学習指導



ゴール(教師像)



「学び合い」の  
コーディネート

学び合い

見通し

見直し

非認知  
能力

児童像、仮説、手立て

# 本校の実践

## 【授業の基盤】

- 授業スタンダード、授業づくりのポイント、学び合い  
→授業づくり研究会、学びウィーク、映像資料による研修

## 【令和7年度からの取組】

- 少人数指導
- おかげさまタイム（授業の振り返り）

# 本校の実践

## 【環境整備】

- 自学の達人、表彰児童の掲示

## 【分析】

- 全学調、県学調の分析
- コバトンのびのびシート
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

# 本校の実践 《授業の基盤》

## 皆小算数科授業スタンダード

- 1 前時までの学習を振り返る
- 2 本時の学習課題をつかむ
- 3 見通しを持つ
- 4 自力解決をする
- 5 比較・検討する
- 6 まとめ
- 7 ふりかえり

皆小算数科授業スタンダード		
本時・本単元で身に付けさせたい力を明確にする		
授業の流れ	指導のポイント	時間
①前時までの学習を振り返る	・本時につながるような事項を押さえておく。	1
②本時の学習課題をつかむ	・問題を提示し、わかっていること、聞かれていること確かめる。 ・問題を通して、課題は本時のまとめと正対するように(児童とのやりとりを通して)設定する。 ・具体物やICTなどを有効に活用し、課題提示を工夫する。	5
③見通しを持つ	・どんな見方、考え方をするか、どんな方法になりそうか、どのくらいになりそうかを見通させ、全体で共有する。 ・今まで学習したことが使えるか、似ている(違うところ)はないか確認する。	5
④自力解決をする。	・実物操作(ブロック)をする。 ・絵図、言葉、式で考えをまとめる。(※筋道立てて表現できるようにする。) ・個に応じた支援(スモールステップ、ヒントカード)を工夫する。 ・他の方法も考える。	8
⑤比較・検討する (学び合い)	・自分の考えを友達に伝える。 ・友達の考えを聞く。 ・互いの考えを比較・検討させる。 (同じ・違うところ、『は・か・せ』など) ↓ ・机指指導で児童の考えを見取り、意図的に指名し全体で繰り返す。 ・ICTを有効に活用する。 ・繰り返す。(観点を明確にして比較・検討) それぞれの考えのよさ、一番価値のあるもの、一般化した考え	15 ~ 20
⑥まとめ	・本時の課題と正対したまとめを、児童の声を生かして作る。 ・適用問題を解き、見いだした数理のよさを味わう。数学的な価値付け	5 ~ 10
⑦ふりかえり	・児童が本時の自分の学びを捉え直せるように、振り返らせる。 ・次時への意欲付けをする。 ・振り返りの視点 ①新しくわかったこと、発見したこと②できるようになったこと③もっとしりたいこと	5

※振り返りを共有する機会(発表・掲示)をとると、上手く書けない児童も書き方がわかってくる。

# 本校の実践 《授業の基盤》

## 授業づくりのポイント

授業前

導入

展開

まとめ

終末

### 授業づくりのポイント

授業前	<p><b>1 本時の学習内容「何を学ぶか」をつかむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題とゴールの具体化「何を学ぶか」「何ができるようになるか」を決める。</li> <li>・教師が教える箇所・児童に考えさせる箇所等「どのように学ぶか」を決める。</li> <li>・ねらいにせまる「中心発問」を考えておく。</li> <li>・「1時間の流れが見える」板書計画をたてておく。</li> </ul> <p><b>2 「何を学ぶか」に応じた教材研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学びの支援となる具体物、ワークシート、ICT 資料等を準備する。</li> <li>・児童の実態把握が重要。「個に応じた支援」「効果的な ICT 活用」</li> </ul>
導入	<p><b>3 コンパクトでインパクトのある導入にする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短く、かつ子供の「やりたい」を引き出す導入で学習への興味・関心を高める。</li> <li>・本時の「ねらい（課題）」を明確にする。</li> </ul>
展開	<p><b>4 「何を学ぶか」に応じた課題設定・発問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い言葉で伝わるよう、言葉を精選する。話しすぎない。</li> <li>・教師が発問せず、児童の発言に切り返し、問い返し、他の児童にも思考を促す。</li> </ul> <p><b>5 解決方法の見通しをもたせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童との対話等を工夫し、主体的に活動の見通しをもたせる。</li> </ul> <p><b>6 個に考えをもたせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決の時間をもつ。見通しをもとに、一人一人に考えや意見をもたせる。</li> </ul> <p><b>7 児童の活動する時間を充実させる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア、グループでの話し合いや ICT 等の活用を回り、対話的な活動を充実させ、自分の考えをアウトプットさせる。</li> <li>※個の考えをしっかりとらせないと、学び合いは充実しない。</li> </ul> <p><b>8 ファシリテーターとして動く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えを「つなぐ・まとめる・広げる」立場で動く「主役は子供」</li> <li>・一部だけの児童の発言だけで進めない。展開にあった考えを意図的に指名し発表させる。</li> <li>・全体での練り上げに向かい、意図的指名、意見を取り上げる順を工夫する。</li> </ul>
まとめ	<p><b>9 「まとめ」で学習内容の定着を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題」と正対した「まとめ」にする。児童の言葉を使ってまとめる。</li> </ul>
終末	<p><b>10 「振り返り」で自分の学びを振り返らせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何ができるようになったか」子供自身が実感できる時間にする。</li> <li>・本時のねらいに応じた自分の学びを振り返ることのできる視点を与える。</li> </ul> <p><b>11 次時につながる意識を高める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習ノートとのリンクを図る。</li> <li>・次の学習への意欲を高める。</li> </ul>



# 本校の実践 《授業の基盤》

## 「学び合い」を効果的に進めるために



### ●展開に応じた学び合いの場面

導入	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 既習事項を確認する学び合い</li><li>・ めあてをつくる学び合い</li><li>・ 解決の見通しを共有する学び合い</li></ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 考える手がかりを共有する学び合い</li><li>・ 考えを交流し合う学び合い</li><li>・ まとめを確認する学び合い</li></ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 理解を深める学び合い（適用問題の説明等）</li><li>・ 自分や友達の成長を認め合う学び合い（振り返り）</li></ul>

# 本校の実践 《授業の基盤》

## 授業づくり研究会

- 職員全員で1時間の授業を教材研究
- 「スタンダード」「ポイント」「学び合い」について、  
授業でどう活用するかを研修
- 個人 ... 普段の授業の振り返り  
グループ... 新しい視点



# 本校の実践 《校内研修》 「学びウィーク」の取組



- お互いの授業を見合う。【学期に2回、各1週間程度】
- 少しでもよいので、自分の空き時間を使う。
- 授業のよいところ、自分でも取り入れたいところを見つける。

# 本校の実践 《授業の基盤》

## 映像資料による研修

○義務教育指導課の研修用資料サイトより  
優れた指導技術の共有・普及

○本校に在籍時(R6)の職員の映像

○ワークシートの作成、活用



# 本校の実践 《新しい取組》

## 少人数指導... 4～6年生

○R7年度から「TT指導」または「少人数指導」

○クラスの低位6人を取り出して指導  
(レディネステストや普段の様子から)

○**低位層の学力、底上げ**を目指す。



# 本校の実践 《新しい取組》

## おかげさまタイム（授業の振り返り）

○授業の最後の振り返りの時間

4つの視点を掲示

○週1回、「おかげさまタイム」の実施  
友達の名前を振り返りの文言に入れる。

○友達と認め合い、学び合いのよさを実感  
**非認知能力の向上**を目指す。

学びをふりかえろう！

- 1 新しく あたら わかったこと  
発見 はっけん したこと
- 2 できるようになったこと
- 3 もっと しりたいこと
- 4 つぎに いかしたいこと

おかげさまタイム

〇〇さんの はっぴょう 発表の おかげ で  
～～がわかった。

〇〇さんと学び合いをした  
おかげ で～～ができた。

など…

# 本校の実践 《環境整備》

## 自学の達人、表彰児童の掲示

- 毎月、学年で1人の児童を決めて表彰
- 廊下に掲示し、参考にできるように
- 賞状伝達の後、写真撮影
- 日々の頑張りを賞賛し、**非認知能力向上**を目指す。



# 本校の実践 《分析》

R6年度、県学調【4年生】

県のレベルを  
超えている

分類	区分	対象問題数	平均正答率			県との比較
			埼玉県	町	本校	
教科の領域	数と計算	13	65.5	67.9	66.9	○
	図形	6	56.1	64.6	63.1	○
	変化と関係	6	63.2	63.9	63.1	
	データの活用	6	62.1	61.8	61.7	
評価の観点	知識・技能	25	68.5	71.4	70.5	○
	思・判・表	6	37.6	39.9	39.2	○
全体			62.6	65.3	64.4	○

# 本校の実践 《分析》

## R6年度、県学調【5年生】

R5の4年から継続して  
高いレベル

分類	区分	対象問題数	平均正答率			県との比較
			埼玉県	町	本校	
教科の領域	数と計算	14	50.9	56.5	55.1	○
	図形	8	64.0	69.0	65.9	○
	変化と関係	6	48.6	50.8	48.3	
	データの活用	4	48.0	55.2	54.2	○
評価の観点	知識・技能	25	54.9	59.5	57.6	○
	思・判・表	7	48.1	54.4	52.1	○
全体			53.4	58.4	56.4	○

# 本校の実践 《分析》

## R6年度、県学調【6年生】

R5の5年からの  
成長

分類	区分	対象問題数	平均正答率			県との比較
			埼玉県	町	本校	
教科の領域	数と計算	13	56.1	64.7	65.9	○
	図形	8	51.3	59.8	61.9	○
	変化と関係	7	58.8	62.8	59.9	○
	データの活用	5	25.8	24.3	21.9	
評価の観点	知識・技能	26	55.2	61.2	61.4	○
	思・判・表	7	35.0	41.3	40.5	○
全体			50.9	57.0	57.0	○

# 本校の実践 《分析》

## R 6 年度、県学調【非認知能力】

		R 6 結果			
		県	町	本校	
4 年生	主体的・対話的で深い学びの実施	3.9	4.1	4.1	
	非認知能力	自己効力感	3.8	4.0	4.0
		やりぬく力	4.0	4.3	4.3

「学び合い」の  
取組の成果

		R 6 結果			R 5 → R 6 (変化量)			
		県	町	本校	県	町	本校	
5 年生	主体的・対話的で深い学びの実施	3.9	4.1	4.0	0	0.2	0.2	
	非認知能力	自己効力感	3.6	3.9	3.9	-0.1	0.2	0.2
		自制心	3.9	4.1	4.1	0.1	0.4	0.4

		R 6 結果			R 5 → R 6 (変化量)			
		県	町	本校	県	町	本校	
6 年生	主体的・対話的で深い学びの実施	3.8	3.9	3.9	0	0.2	0.2	
	非認知能力	自己効力感	3.6	3.5	3.5	0	0.3	0.4
		やりぬく力	3.0	2.9	2.9	-0.1	-0.2	-0.2

# 本校の実践 《分析》

R7年度、県学調【4年生】

県のレベルに  
わずかに届かず

分類	区分	対象問題数	平均正答率			県との比較
			埼玉県	町	本校	
教科の領域	数と計算	13	67.3	66.6	65.9	
	図形	5	64.9	64.6	63.5	
	変化と関係	7	68.2	69.9	68.9	○
	データの活用	6	62.5	60.4	59.1	
評価の観点	知識・技能	20	72.8	73.3	72.8	
	思・判・表	11	54.2	52.3	50.4	
全体			66.2	65.8	64.9	

# 本校の実践 《分析》

## R7年度、県学調【5年生】

R6の4年からの  
伸びに課題

分類	区分	対象問題数	平均正答率			県との比較
			埼玉県	町	本校	
教科の領域	数と計算	14	52.0	48.8	46.1	
	図形	8	52.1	51.8	49.0	
	変化と関係	6	36.1	30.3	28.5	
	データの活用	4	46.5	45.4	46.7	○
評価の観点	知識・技能	18	50.5	48.9	46.5	
	思・判・表	14	45.6	41.5	39.8	
全体			48.3	45.7	43.6	

# 本校の実践 《分析》

## R7年度、県学調【6年生】

6年まで継続して  
高いレベル

分類	区分	対象問題数	平均正答率			県との比較
			埼玉県	町	本校	
教科の領域	数と計算	13	59.0	69.1	65.8	○
	図形	8	43.9	46.3	43.9	
	変化と関係	7	54.5	61.6	59.9	○
	データの活用	5	45.7	51.1	48.9	○
評価の観点	知識・技能	24	53.8	60.0	57.0	○
	思・判・表	9	48.6	57.4	55.8	○
全体			50.9	57.0	57.0	○

# 本校の実践 《分析》

## R 7 年度、県学調【非認知能力】

		R 7 結果		
		県	町	本校
4 年生	主体的・対話的で深い学びの実施	4.2	4.4	4.4
	非認知能力			
	自己効力感	3.8	3.8	3.7
	自制心	4.0	3.8	3.8

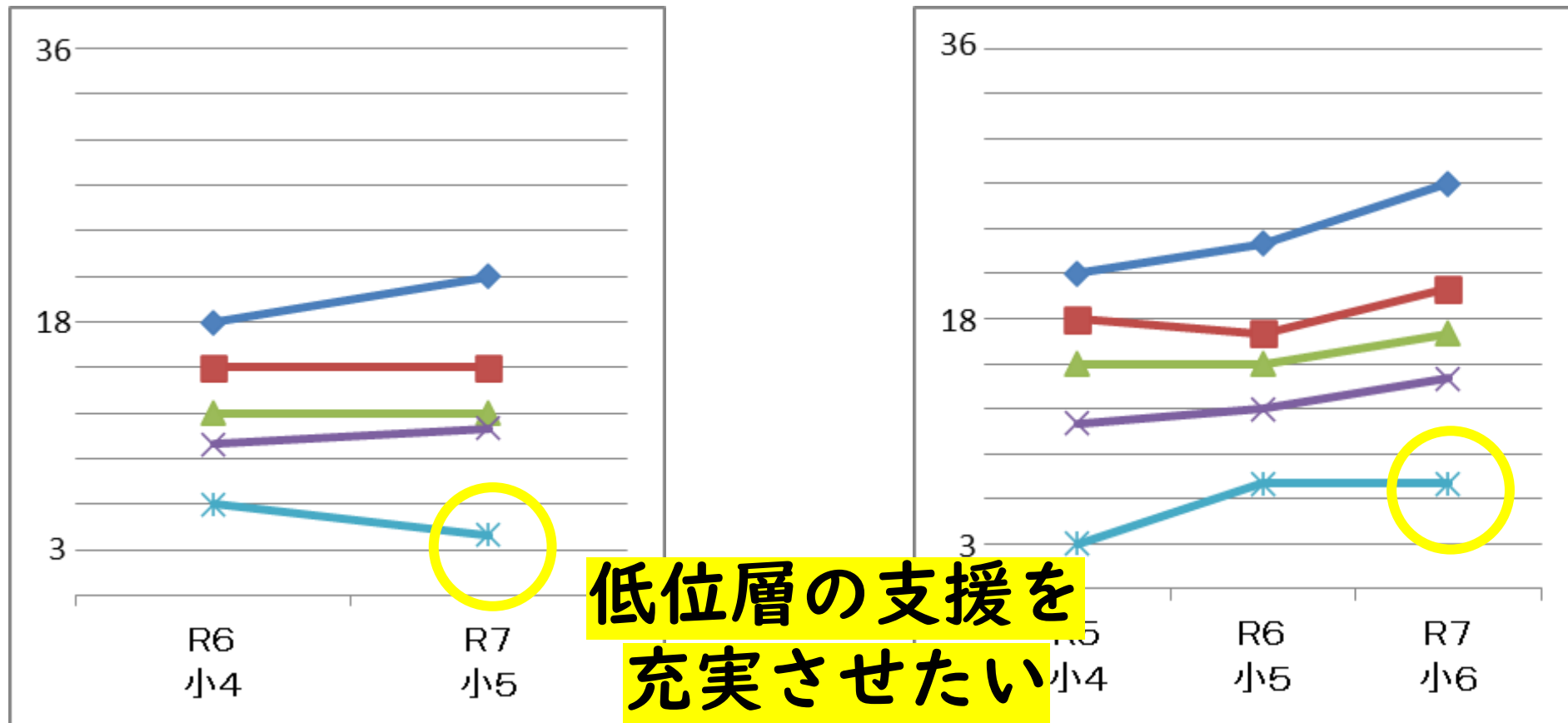
「学び合い」の  
取組の成果

		R 7 結果			R 6 → R 7 (変化量)		
		県	町	本校	県	町	本校
5 年生	主体的・対話的で深い学びの実施	4.1	4.2	4.3	0.2	0.1	0.1
	非認知能力						
	自己効力感	3.6	3.7	3.7	-0.2	-0.3	-0.4
	向社会性	4.0	4.2	4.2	0	-0.1	-0.1

		R 7 結果			R 6 → R 7 (変化量)		
		県	町	本校	県	町	本校
6 年生	主体的・対話的で深い学びの実施	4.1	4.3	4.2	0.2	0.2	0.2
	非認知能力						
	自己効力感	3.6	3.7	3.6	-0.1	-0.2	-0.3
	自制心	3.9	4.2	4.1	0.0	0.0	0.0

# 本校の実践 《分析》

- 算数の伸びを各階層で見ると...



# 本校の実践 《分析》

## コバトンのびのびシートの作成

### ○特徴

- ・ 個別で結果が見られる。  
⇒ 一人一人に焦点を当てて、振り返りができる。
- ・ 伸ばしたいところに記述ができる。  
⇒ クラス全員の記述は難しい。

The image shows a screenshot of a software interface titled 'コバトンのびのびシート' (Cobaton's Bibo Sheet). It features a data table at the top with columns for '科目' (Subject), '単元' (Unit), '平均' (Average), '最高' (Maximum), '最低' (Minimum), '標準偏差' (Standard Deviation), and '順位' (Rank). Below the table is a bar chart comparing '平均' (Average) and '標準偏差' (Standard Deviation) across different subjects. The right side of the interface contains a form for '伸ばしたいところ' (Areas to improve), with sections for '得意なところ' (Strengths) and '伸ばしたいところ' (Areas to improve), each with a list of options and a space for handwritten notes.



# 本校の実践 《分析》

## コバトンのびのびシートの作成

### ○皆野小での活用

- ・ R6 ...各クラスで高位、中位、低位から一人ずつ「伸ばしたいところ」を書く児童を決める。
- ・ R7 ...各クラスで低位3人に焦点を当てて、「伸ばしたいところ」を書く児童を決める。

# 本校の実践《分析》

## コバトンのびのびシートの作成

The image shows a 'Cobaton's Bibo Sheet' (コバトンのびのびシート) which is a data analysis tool. It consists of a table with columns for '学年' (Grade), '人数' (Number of students), '平均' (Average), '標準偏差' (Standard deviation), '最大値' (Maximum), and '最小値' (Minimum). The table contains data for two groups: '200' and '201'. Below the table is a bar chart comparing the '平均' (Average) and '標準偏差' (Standard deviation) for both groups. To the right of the chart is a checklist with various items and checkboxes, and a section for '感想' (Comments).

### ○皆野小での活用

- ・ 個をイメージした具体的な手立てを考えることで、授業中はどんなことを意識すればよいのか。それぞれのレベルにどうアプローチすればよいのか。を考えられる。

**個を考えることをきっかけとした授業改善**



# 本校の実践 《分析》

## 「主体的・対話的で深い学び」

### の視点による質問調査

- ・ 教員と児童、双方から授業について振り返りを行った。
- ・ 結果から、職員間で授業の良さを共有したり、改善点の検討をしたりできた。

【埼玉県義務教育指導課研修用資料サイトから活用】

調査実施学年・組等		6年 1組				調査実施学年・組等	
教科		算数				教科	
実施年月		R6.6月				実施年月	
項目番号	児童生徒調査項目	児童生徒	教員	児童生徒	教員	児童生徒	教員
1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと	3.80	4.00				
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと	4.10	3.00				
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと	3.80	4.00				
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと	4.40	4.00				
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと	4.10	4.00				
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと	3.70	4.00				
7	授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思ったこと	3.70	3.00				
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと	4.20	4.00				
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと	4.10	4.00				
10			4.00				

# 本校の実践 《分析》

## 「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

調査実施学年・組等		3年 1組						調査実施学年・組等
教科		算数		算数				教科
実施年月		R7,5月		R79月				実施年月
項目番号	児童生徒調査項目	児童生徒	教員	児童生徒	教員	児童生徒	教員	教員調査項目
1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと	3.75	5.00	4.28	5.00			子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと

- ・ 教員の意識は高い ⇒ 2学期にかけて、児童も上がっている。
- ・ 児童にとって「スタンダード」が定着し、見通しをもって授業に臨むことができたため、このような結果になったと考えられる。

# 本校の実践 《分析》

## 「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

調査実施学年・組等		5 年 2 組						調査実施学年・組等	
教科		算数		算数				教科	
実施年月		R7,5月		R7, 9月				実施年月	
項目番号	児童生徒調査項目	児童生徒	教員	児童生徒	教員	児童生徒	教員	教員調査項目	
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと	3.43	3.00	3.70	3.00			授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと	

- ・ 教員の意識は低め ⇒ 児童の数値も伸び悩み
- ・ 学校全体としても、振り返りの時間の確保が課題
- ・ 担任の回答を平均すると... 5月 → 2.7 9月 → 2.8

# 成果

- ・ 授業づくりのポイント
- ・ スタンダード
- ・ 学び合い



- ・ 映像資料、授業づくり研究会  
学びウィーク

**足並みを揃えて授業**

**皆小算数科授業スタンダード**  
本時・本単元で身に付けさせたい力を明確にする

授業の流れ	指導のポイント	時間
①前時までの学習を振り返る	・本時につながるような事項を問うておく。	1
②本時の学習課題をつかむ	・問題を提示し、わかっていること、聞かれていること確かめる。 ・問題を讀んで、課題は本時のまともに対応できるように(児童とのやりとりを通して)設定する。 ・具体物やICTなどを有効に活用し、課題設定を工夫する。	5
③見直しを持つ	・どんな見方、考え方をするか、どんな方法になりそうか、どのくらいになりそうかを視覚させ、全体で共有する。 ・今まで学習したことが使えるか、使えている(違うところはないか)を確認する。	5
④自力解決をする。	・実数操作(フロッグ)をする。 ・絵図、言葉、式で考えをまとめる。(※筋道立てて表現できるようにする。) ・個に応じた支援(スモールステップ、ヒントカード)を工夫する。 ・他の方法も考える。	8
⑤比較検討する(学び合い)	・自分の考えを友達に伝える。 ・友達のことを聞く。 ・高い考えを比較・検討させる。 ・(聞いているところ、わかったところ) ・教師指導で児童の考えを視取りし、視取りに指名し、全体で繰り返す。 ・ICTを有効に活用する。 ・繰り返す。(視点を明確にして比較・検討) ・それぞれの考えのよさ、一番面白いもの、一番自分な考え	15 20
⑥まとめ	・本時の課題と正解したまとめ、児童の声を基として作る。 ・適用課題を解き、残った課題のよさを残ろう、数学的な価値付け	5 10
⑦振り返り	・児童が本時の自分の学びを振り返らせるように、振り返らせる。 ・次時への課題付けをする。 ・振り返りの視点 ・(振り返り)の視点 ・(振り返り)の視点	5

ペア  
グループ  
全体

※振り返りを共有する機会(発表・掲示)をとると、上手く書けない児童も書き方がわかってくる。

**授業づくりのポイント**

授業前	<p><b>1 本時の学習内容「何を学ぶか」をつかむ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員とゴールの視座で「何を学ぶか」(何が学ぶことになるのか)を決める。</li> <li>・教員が用意する課題・児童が考えさせる課題等(どのくらいに準備を)を決める。</li> <li>・学び合いさせる「何を学ぶか」を決める。</li> <li>・「何を学ぶか」を決める。</li> </ul> <p><b>2 「何を学ぶか」に応じた教材研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学びの過程となる具体物、ワークシート、ICT資料等を準備する。</li> <li>・児童の課題設定を準備。(個に応じた支援)「何を学ぶか」(活用)</li> </ul>
導入	<p><b>3 コンパクトでインパクトのある導入にする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短く、かつ子供の「やりたい」を引き出す導入で本時の課題・疑問を喚起する。</li> <li>・本時の「何を学ぶか」(活用)にする。</li> </ul>
展開	<p><b>4 「何を学ぶか」に応じた課題設定・発問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短く、明確で伝わるよう、質問を準備する。話しやすい。</li> <li>・教師が準備する。児童の発問に寄り添い、繰り返す。他の児童にも思考を促す。</li> </ul> <p><b>5 解決方法の見直しをもたせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童との対峙等を工夫し、教師が児童の考えをまとめる。</li> </ul> <p><b>6 個々に考えをもたせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決の時間をもち、見直しをさせ、一人一人に考えを表現させる。</li> </ul> <p><b>7 児童の活動する時間を充実させる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア、グループでの活動(やりとり)などの時間を確保し、対峙する時間を充実させる。</li> <li>・自分の考えを発表し、学び合いさせる。</li> <li>・自分の考えをしっかりと発表させる。</li> </ul> <p><b>8 ファシリテーターとして動く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えを「つなぐ・まとめる・広げる」立場で動く「生徒は子供」</li> <li>・一人ひとりの考えの強みだけを強みとし、弱みがあった考えを強みに変換し共有させる。</li> <li>・全体での振り返りが全員が、意図的に行き、意見を返すことができる工夫する。</li> </ul>
まとめ	<p><b>9 「まとめ」で学習内容の定着を図る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何を学ぶか」(活用)にする。児童の意見をまとめてまとめる。</li> </ul>
転承	<p><b>10 「振り返り」で自分の学びを振り返らせる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを通して自分の学びを振り返らせる。</li> <li>・本時の学びから次時への学びにつながるような学びを振り返らせる。</li> </ul> <p><b>11 次時につながる意図を高める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習ノートとのリンクを図る。</li> <li>・次の学習への意図を高める。</li> </ul>



# 成果

○R7年度県学調分析から...

- ・今年度の6年は4年から継続して県平均より高いレベル

授業の流れをつかみ、着実に学力を伸ばしている

- ・非認知能力に関する数値は4～6年ともに高い

学校としての取組が安心感につながっている

○普段の児童の様子から...

- ・学び合いがあるからこそ、自分の考えをまとめることに抵抗感が少ない。

低学年のうちから、表現することに慣れている

- ・学び合いによって、聞く側の姿勢も高まっている。

学習規律の高まりにも影響している

# 課題

○R7年度県学調分析から...4～5年での伸びに課題がある

低位層の支援が必要

TT指導と少人数指導の組み合わせ

○振り返りの時間の確保が難しい

振り返りまでの授業の時間の配分、活動の精選

○学び合いのレベルの向上を図りたい

学び合いの目的や視点を明確に指示

# 課題

○分析に関わる研修が4～6年への手立てに比重が偏る

1～3年のうちに取り組むべき手立ての考察

○基礎的な計算力の底上げが必要である

百マス計算や九九カードへの取組の強化

○学び合いの視点や進め方を明確にするとよい

型を作る等、具体的な動きを全校で統一

# 成果

## 授業の様子……児童の学ぶ姿勢



「学び合い」



# 成果

## 校内研修の様子……教員の学ぶ姿勢



「学び合い」



# 算数科における学力向上を目指した学習指導の研究 ～共に学び合う児童の育成を目指して～

## 皆野町立皆野小学校

ご清聴ありがとうございました。



皆野町イメージキャラクター「み～な」